

てん茶用品種「さみどり」のはさみ摘みにおける 早期成園化技術

[要 約]

てん茶用品種「さみどり」は、はさみ摘み茶園として早期に成園化するためには、条間を広げ株間を狭める栽植密度に深型ポット苗を定植し、幼木期のせん枝位置をやや高くすることが有効である。

[キーワード] てん茶用品種、さみどり、はさみ摘み、早期成園化、栽植密度、ポット苗

[担 当] 京都府立茶業研究所・栽培課

[連絡先] 電話 0774-22-5577、メール ngc-chaken@pref.kyoto.lg.jp

[区 分] 近畿中国四国農業・茶業

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

「さみどり」はてん茶用として高品質・多収を兼備した優れた品種であり、京都府では手摘みによる集約的な栽培が広く行われるとともに、最近では、急増しているはさみ摘みてん茶用としても注目されている。しかしながら「さみどり」の特性として、初期生育がやや弱いことに加え樹姿が極直立型で分枝が少ないため、はさみ摘みにおいては早期に株張りを広げ摘採面積を確保することが難しく成園化が遅れるという問題がある。

そこで、深型ポット苗の使用及び栽植法、仕立て法を改良した実証栽培を行い、「さみどり」の早期成園化技術を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 本実証区は、品種「さみどり」で深型ポット苗(1年生)を用い、慣行に比べ株間を 15cm 狭くし条間を 10cm 広げ、さらに定植2年目、3年目春のせん枝位置を慣行よりそれぞれ 5cm 高くする方法である(表1)
2. 深型ポット苗を定植すると活着株率は 99.4%と高く、植え傷みが極めて少ない(表2)。
3. 深型ポット苗を用いた実証区の定植3～5年目における樹高、株張りは、常に慣行区を上回っており(表3)、実証区の初期生育向上と株張り拡大効果が認められる。
4. 一番茶収量は、定植4年目では処理区で差はないが、摘採面積の増加とともに摘採面当たりの収量性が高く維持されたことにより、定植5年目には深型ポット苗を用いた実証区が約 440kg/10a と最も高くなる(図1)。
5. 一番茶の収量構成を比較すると、定植4年目では実証区は慣行区に比べ新芽数が約3割多い反面、百芽重は約3割少なくなるなど芽数型の傾向が強いが、定植5年目になるとこの傾向が緩和され、新芽数の増加は約1割多い程度にとどまり、百芽重は同等以上

である(表4)。

- 以上の結果から、「さみどり」の早期世園化技術として、条間を広げ株間を狭める栽植密度に深型ポット苗を定植し、幼木期のせん枝位置をやや高くすることが有効である。

[成果の活用面・留意点]

- 本成果で用いた深型ポット苗は塩ビ管により育苗したものであるが、最近主流となっているペーパーポット苗を用いた場合でもほぼ同様の効果が期待でき、さらに定植時の作業も簡便である。

[具体的データ]

表1 試験区の構成

処理区	品種名	定植苗 ¹⁾		栽植密度(cm)、条数 ²⁾				せん枝の高さ(cm) ³⁾				
		苗	苗齢	うね間	株間	条間	条数	定植時	2年目春	3年目春	3年目夏	3年目秋
実証区	さみどり	深型ポット	1	180	45	40	2	25	35	45	50	55
		普通	2									
慣行区	やぶきた	普通	1	180	60	30	2	25	30	35	40	45

1)深型ポット苗は、塩ビ管(直径7.5cm×深さ25cm)を使用して育苗した。2)各区とも2条千鳥植え。試験規模2a/区。

3)定植は1998年3月。初回せん枝は2年目の一番茶後とし、第2回せん枝は3年目の一番茶前とした。

表2 実証区における深型ポット苗と普通苗の活着率の比較(定植2年目;1999年)

供試苗	定植本数	欠株数	生存率(%)
深型ポット苗	680	4	99.4
普通苗	607	22	96.4

表3 定植3～5年目における樹高、株張りの推移

処理区	樹高(cm)			株張り(cm)		
	3年目	4年目	5年目	3年目	4年目	5年目
実証区(深型ポット苗)	61	67	73	95	112	120
慣行区	54	63	68	92	106	114

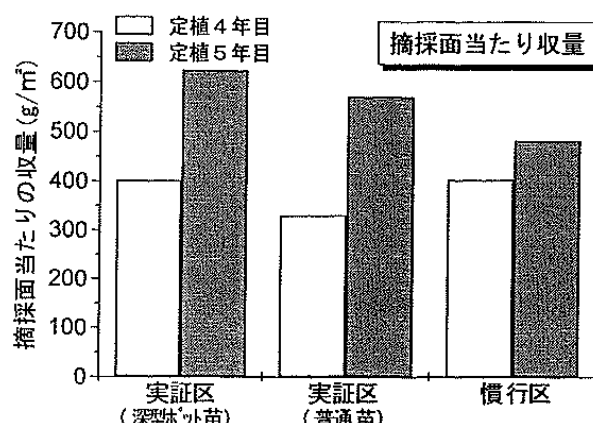
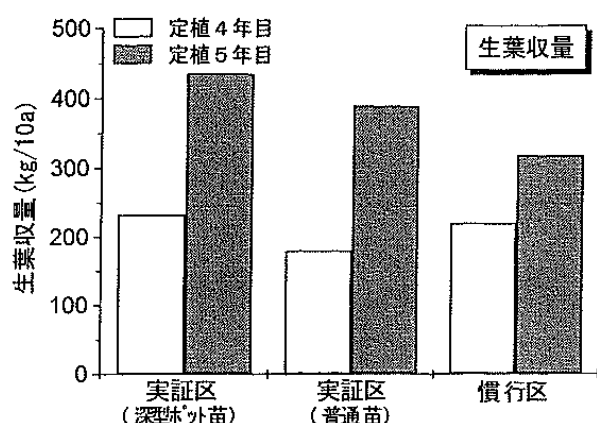


図1 定植4～5年目の一番茶生葉収量及び摘採面当たり収量

表4 定植4～5年目における摘採面幅及び一番茶収量構成要素の推移

処理区	摘採面幅(cm)		新芽数(本/m ²)		新芽長(cm)		新葉数(枚)		百芽重(g)		出開き度(%)	
	4年目	5年目	4年目	5年目	4年目	5年目	4年目	5年目	4年目	5年目	4年目	5年目
実証区(深型ポット苗)	104	126	919	1458	5.1	5.8	2.6	3.2	49	54	6	29
実証区(普通苗)	98	123	859	1625	4.5	5.4	2.7	3.1	45	54	4	27
慣行区	98	119	653	1352	7.2	4.7	3.1	2.9	70	48	15	26

[その他]

研究課題名 : 品種に関する調査「さみどり」の早期成園化技術

予算区分 : 府単

研究期間 : 1998～2002 年度

研究担当者 : 荻 安彦、神田真帆、上辻久利

発表論文等 :